

1. 研究課題名：
福島原発近隣における里山生態系を含めた
除染効果の評価と住民の中期曝露評価

2. 研究代表者氏名及び所属：
小泉 昭夫（京都大学大学院医学研究科）



3. 研究実施期間：
平成 24～25 年度

4. 研究の趣旨・概要

福島第一原発の事故後の計画的避難区域では高濃度の汚染が考えられる。今後の地域での放射性セシウムの汚染を予測する上で、里山生態系が重要であることを見出した。被曝予防には里山生態系を含めた地域での拡散予測とモデル化の検討が必要である。

本研究では主として被曝を評価するため陰膳食事調査、大気調査、個人モニタリング、健康影響評価を行う。同時に、地域の代表樹種について樹体中の¹³⁷Csの分布を明らかにし、土壌-植物間での¹³⁷Csの移行と生態系での循環をモニタリングする。また、里山での動態モデリングにより森林植生、大気中の放射性物質量を推定する。

以上を持って、里山周辺に住む住民の中期被曝評価と予防を行う。

5. 研究項目及び実施体制

- ① 里山住民の曝露評価（京都大学大学院医学研究科 及び 放射線生物研究センター）
- ② 里山生態系における¹³⁷Csの動態把握と将来予測（京都大学地球環境学堂）
- ③ 里山動態モデリング（京都大学防災研究所）

6. 研究のイメージ

研究課題名: 福島原発近隣における里山生態系を含めた除染効果の評価と住民の中期曝露評価
課題番号: ZB-1202

